

国内の畜産物の需給動向

牛 肉

7 年 6 月の牛肉生産量、前年同月比1.5%増

生産量

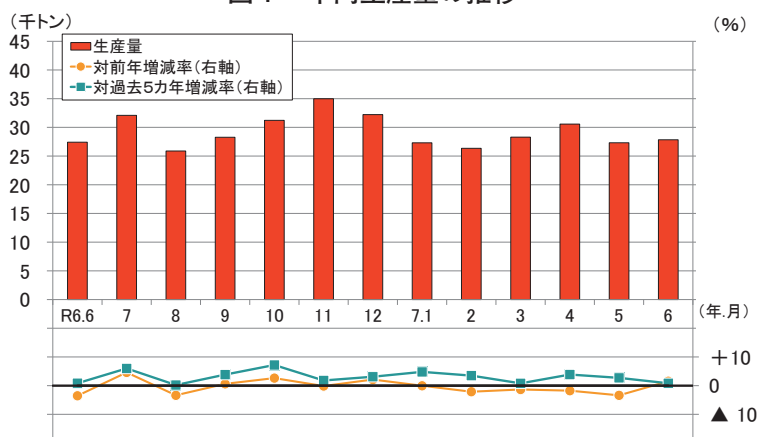
令和 7 年 6 月の牛肉生産量^(注1)は、2 万 7841 トン（前年同月比1.5%増）と前年同月をわずかに上回った（図 1）。品種別では、和牛は 1 万 4793 トン（同6.8%増）とかなりの程度、交雑種は 7568 トン（同5.1%増）

とやや、いずれも前年同月を上回った一方、乳用種は 5426 トン（同11.2%減）と前年同月をかなり大きく下回った。

なお、過去 5 カ年の 6 月の平均生産量との比較では、0.8%増とわずかに上回る結果となった。

（注 1）生産量の合計は、その他の牛、子牛を含む。

図 1 牛肉生産量の推移



資料：農林水産省「食肉流通統計」
注：部分肉ベース。

輸入量

6 月の輸入量について、冷蔵品は、国内需要が低調な中、現地価格の高止まりの影響などにより、主要輸入先を含むほとんどの輸入先からの輸入量が減少したことなどから、1 万 4103 トン（前年同月比20.4%減）と前年同月を大幅に下回った（図 2）。冷凍品は、主要輸入先のうち米国産はショートプレート

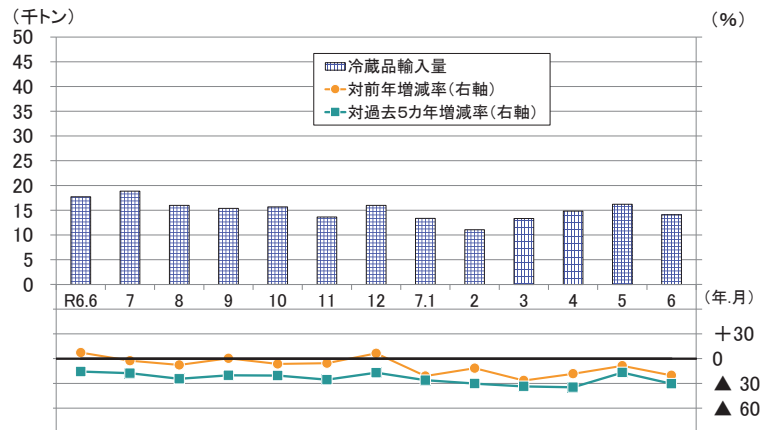
の輸入量が現地価格の軟化などにより増加した一方、現地価格の高止まりの影響に加え、輸入品在庫量が比較的高水準であることなどにより、ほとんどの輸入先からの輸入量が減少したことなどから、2 万 8108 トン（同 5.8%減）と前年同月をやや下回った（図 3）。この結果、輸入量の合計^(注2)でも、4 万 2220 トン（同11.3%減）と前年同月をかなり大きく下回った。

なお、過去 5 カ年の 6 月の平均輸入量との比較では、冷蔵品は 30.4%減と大幅に、

冷凍品も6.5%減とかなりの程度、いずれも
下回る結果となった。

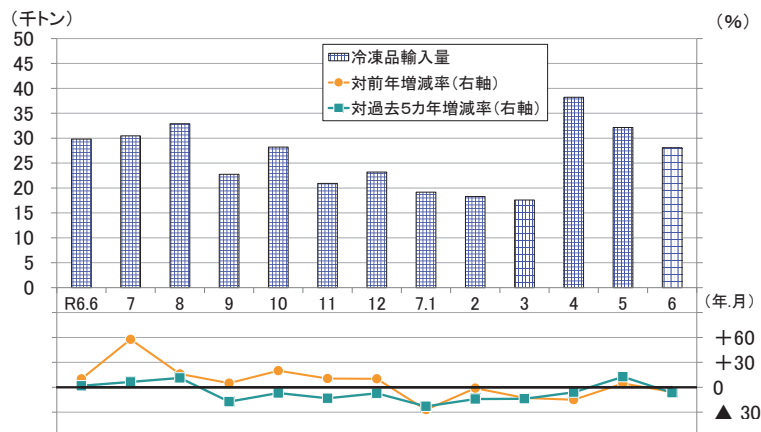
(注2) 輸入量の合計は、煮沸肉、ほほ肉、頭肉を含む。

図2 冷蔵牛肉輸入量の推移



資料：財務省「貿易統計」
注：部分肉ベース。

図3 冷凍牛肉輸入量の推移



資料：財務省「貿易統計」
注：部分肉ベース。

家計消費量等

6月の牛肉の家計消費量（全国1人当たり）^(注3)は、152グラム（前年同月比2.2%増）と前年同月をわずかに上回った（総務省「家計調査」）。

なお、過去5カ年の6月の平均消費量との比較では、10.8%減とかなりの程度下回る結果となった。

6月の外食産業全体の売上高は、下旬を中心に6月としては「記録的な高温」となったため、冷たい麺類メニューや、ビール類、飲料などが好評であった他、物価高などによる

節約志向の強まりを背景に、ファストフードなど低価格業態や各社のキャンペーンが好調で、前年同月比6.0%増と前年同月をかなりの程度上回った（一般社団法人日本フードサービス協会「外食産業市場動向調査」）。売上高は堅調を維持したものの、暑すぎる天候に加え、土曜日が少ない曜日回りなども影響して客数の伸びが鈍化し、前年を下回る業態もあった。

このうち、食肉の取り扱いが多いとされる業態として、ハンバーガー店を含むファストフードの洋風は、期間限定メニューやお得なランチメニューなどが好調で、同5.2%増と

前年同月をやや上回った。また、牛丼店を含むファストフードの和風は、客数が前年同月並みにとどまったものの、毎月替わる定食メニューや新規投入の麺類メニューなどが好調で、同12.5%増と前年同月をかなり大きく上回った。一方、ファミリーレストランの焼き肉は、土曜日が少ない曜日回りが影響し、同0.4%減と前年同月をわずかに下回った。

(注3) 1世帯当たりの数値を当該月の世帯人数で除して算出。

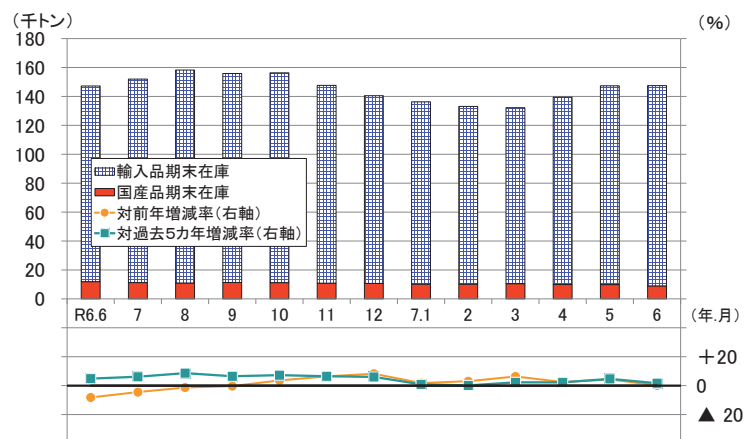
推定期末在庫・推定出回り量

6月の推定期末在庫は、14万7497トン

(前年同月比0.2%増)と前年同月並みとなった(図4)。このうち、国産品は8963トン(同24.6%減)と前年同月を大幅に下回った一方、在庫の大半を占める輸入品は13万8534トン(同2.4%増)と前年同月をわずかに上回った。

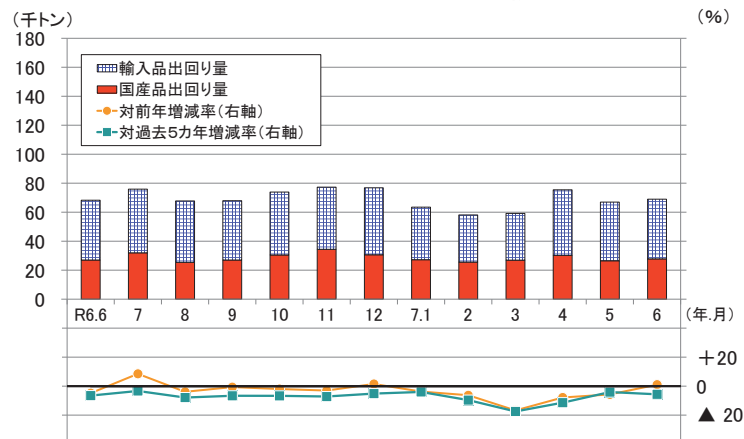
推定出回り量は、6万8972トン(同1.0%増)と前年同月をわずかに上回った(図5)。このうち、国産品は2万7803トン(同2.9%増)と前年同月をわずかに上回った一方、輸入品は4万1168トン(同0.1%減)と前年同月並みとなった。

図4 牛肉期末在庫の推移



資料：農畜産業振興機構調べ

図5 牛肉出回り量の推移



資料：農畜産業振興機構調べ

(畜産振興部 丸吉 裕子)

豚 肉

7 年 6 月の豚肉生産量、前年同月比3.5%増

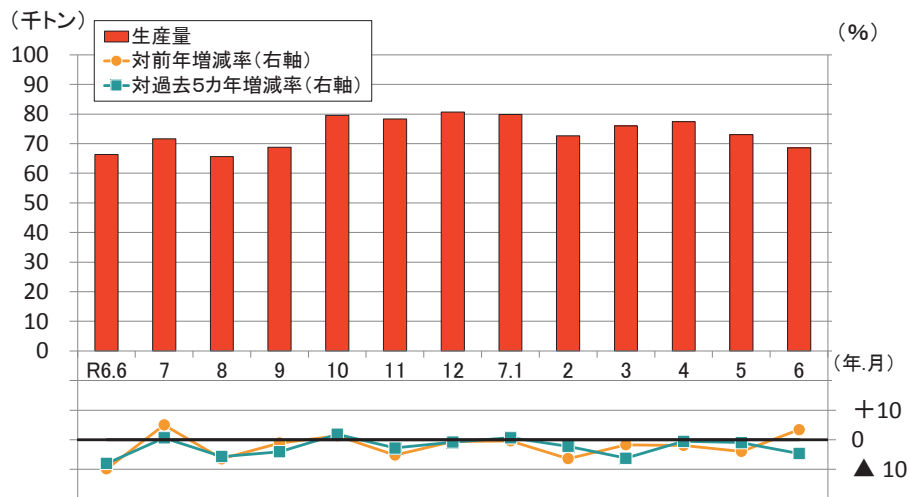
生産量

令和 7 年 6 月の豚肉生産量は、6 万 8 598 トン（前年同月比 3.5% 増）と前年同月を

やや上回った（図 1）。

なお、過去 5 力年の 6 月の平均生産量との比較では、4.6% 減とやや下回る結果となった。

図 1 豚肉生産量の推移



資料：農林水産省「食肉流通統計」

注：部分肉ベース。

輸入量

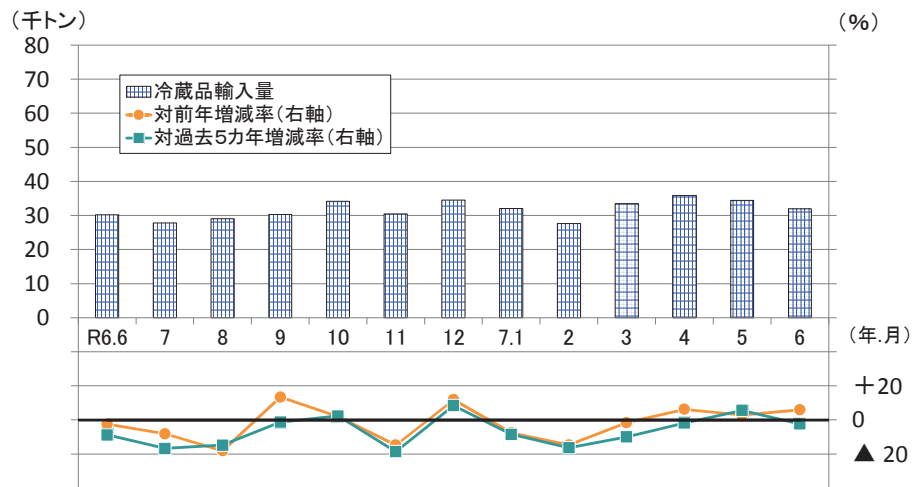
6 月の輸入量について、冷蔵品は、米国産の現地相場が上昇する中、価格優位性が生じたカナダ産が増加したことや、入船遅れにより前月分のメキシコ産の通関がずれ込んだことなどから、3 万 2 020 トン（前年同月比 6.0% 増）と前年同月をかなりの程度上回った（図 2）。冷凍品は、価格優位性のあるブラジル産が増加したことや、現地相場の軟化などを背景にスペイン産が増加したことなど

から、5 万 1 702 トン（同 0.6% 増）と前年同月をわずかに上回った（図 3）。この結果、輸入量の合計^{（注 1）}でも、8 万 3 731 トン（同 2.5% 増）と前年同月をわずかに上回った。

なお、過去 5 力年の 6 月の平均輸入量との比較では、冷蔵品は 2.4% 減とわずかに下回った一方、冷凍品は 6.4% 増とかなりの程度上回る結果となった。

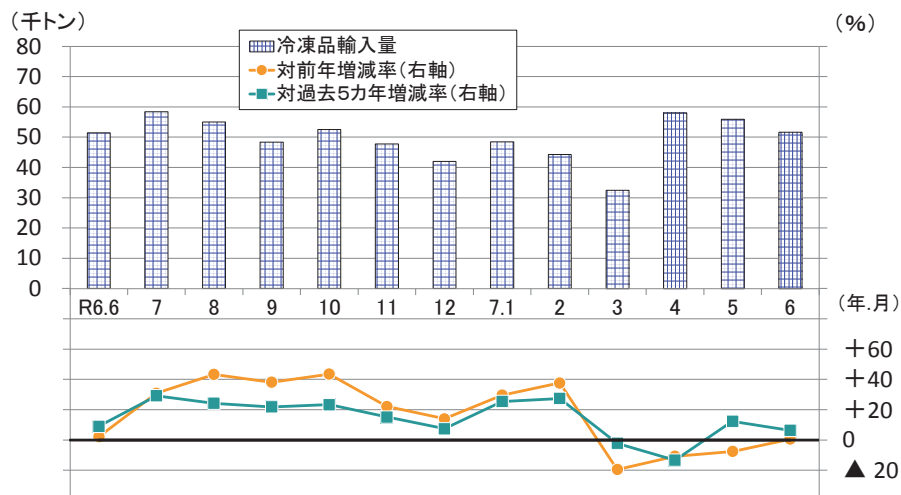
（注 1）輸入量の合計は、くず肉を含む。

図2 冷蔵豚肉輸入量の推移



資料：財務省「貿易統計」
注：部分肉ベース。

図3 冷凍豚肉輸入量の推移



資料：財務省「貿易統計」
注：部分肉ベース。

家計消費量

6月の豚肉の家計消費量（全国1人当たり）^{（注2）}は、632グラム（前年同月比0.9%増）と前年同月をわずかに上回る結果となった（総務省「家計調査」）。

なお、過去5カ年の6月の平均消費量との比較でも、2.2%増とわずかに上回る結果となった。

（注2） 1世帯当たりの数値を当該月の世帯人数で除して算出。

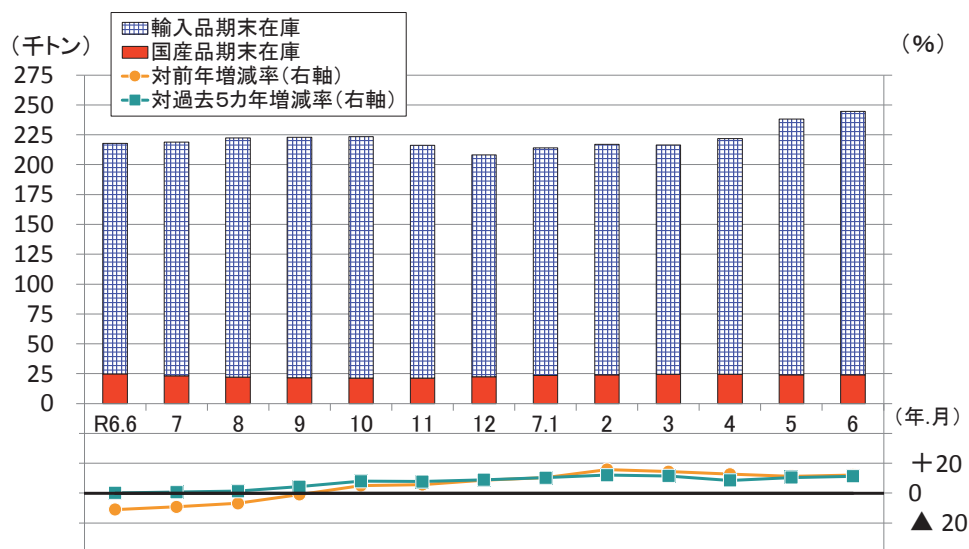
推定期末在庫・推定出回り量

6月の推定期末在庫は、24万4675トン（前年同月比12.3%増）と前年同月をかなり大きく上回った（図4）。このうち、輸入品は、22万673トン（同14.2%増）と前年同月をかなり大きく上回った。

推定出回り量は、14万5767トン（同1.1%増）と前年同月をわずかに上回った（図5）。このうち、国産品は6万8560トン（同4.4%増）と前年同月をやや上回った一方、

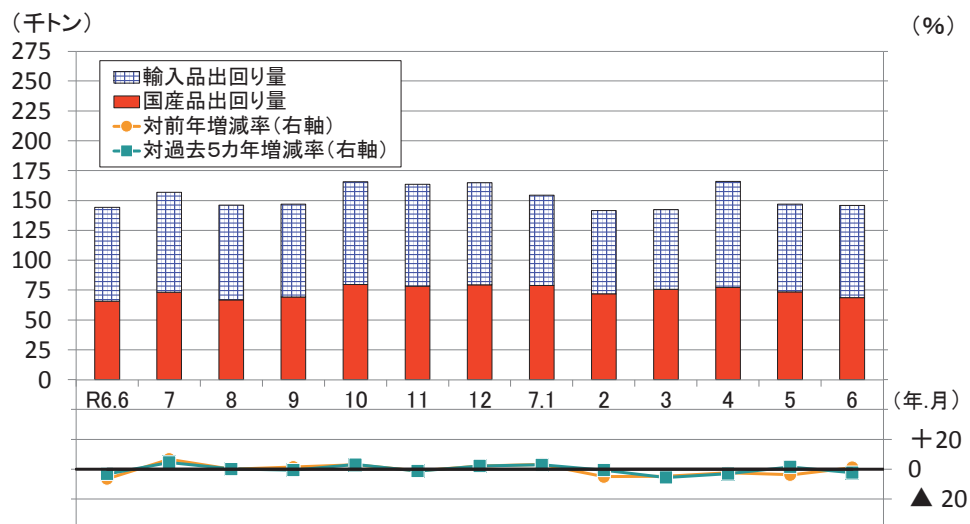
輸入品は7万7207トン（同1.6%減）と前年
同月をわずかに下回った。

図4 豚肉期末在庫の推移



資料：農畜産業振興機構調べ

図5 豚肉出回り量の推移



資料：農畜産業振興機構調べ

(畜産振興部 小森 香穂)

鶏 肉

7 年 6 月の鶏肉生産量、前年同月比1.0%減

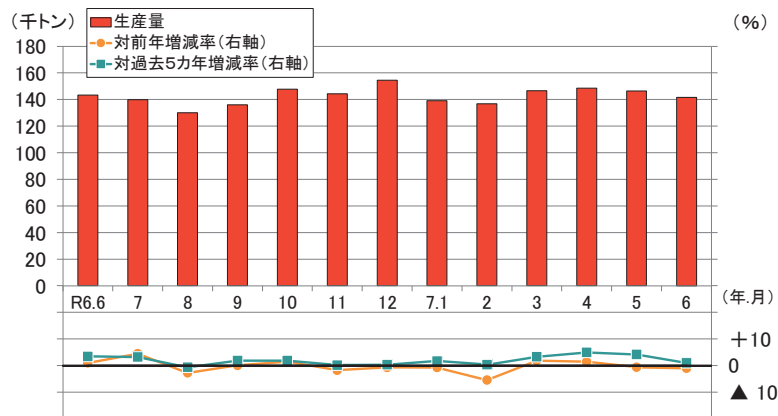
生産量

令和7年6月の鶏肉生産量は、14万1698トン（前年同月比1.0%減）と前年同月を

わずかに下回った（図1）。

なお、過去5カ年の6月の平均生産量との比較では、1.1%増とわずかに上回る結果となった。

図1 鶏肉生産量の推移



資料：農畜産業振興機構調べ
注1：骨付き肉ベース。
注2：成鶏肉を含む。

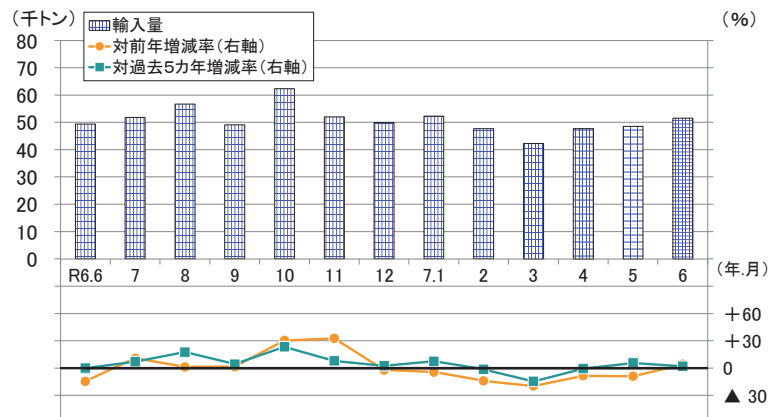
輸入量

6月の輸入量は、外食や中食などの好調な需要を背景に、主要輸入先のうちタイ産が大幅に増加したことなどから、5万1556トン

（前年同月比4.4%増）と前年同月をやや上回った（図2）。

なお、過去5カ年の6月の平均輸入量との比較では、2.0%増とわずかに上回る結果となった。

図2 鶏肉輸入量の推移



資料：財務省「貿易統計」
注：鶏肉以外の家きん肉を含まない。

家計消費量

6月の鶏肉の家計消費量（全国1人当たり）^{（注）}は、508グラム（前年同月比6.7%減）と前年同月をかなりの程度下回る結果となった（総務省「家計調査」）。

なお、過去5カ年の6月の平均消費量との比較では、1.5%減とわずかに下回る結果となった。

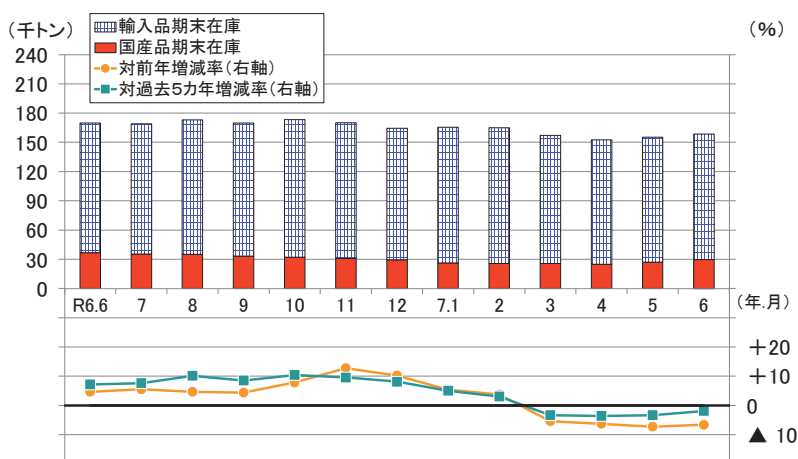
（注）1世帯当たりの数値を当該月の世帯人数で除して算出。

推定期末在庫・推定出回り量

6月の推定期末在庫は、15万8611トン（前年同月比6.6%減）と前年同月をかなりの程度下回った（図3）。このうち、輸入品は12万8818トン（同3.2%減）と前年同月をやや下回る結果となった。

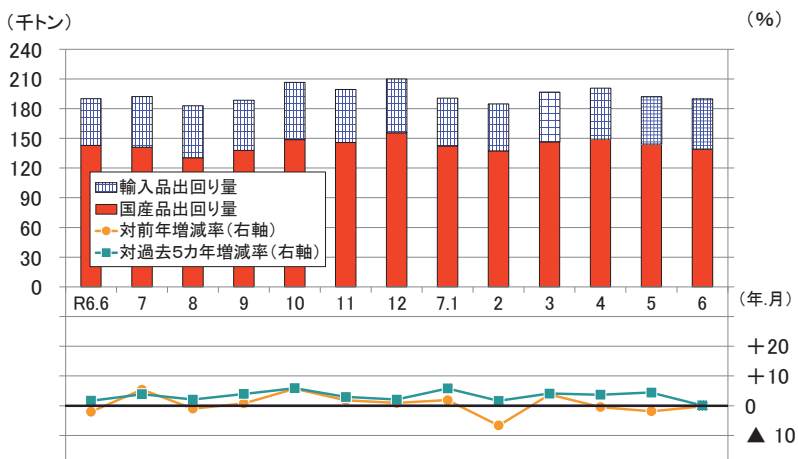
推定出回り量は、18万9799トン（同0.1%減）と前年同月並みとなった（図4）。このうち、国産品は13万8887トン（同2.7%減）と前年同月をわずかに下回った一方、輸入品は5万912トン（同7.5%増）と前年同月をかなりの程度上回った。

図3 鶏肉期末在庫の推移



資料：農畜産業振興機構調べ

図4 鶏肉出回り量の推移



資料：農畜産業振興機構調べ

（畜産振興部 越川 紗弥）

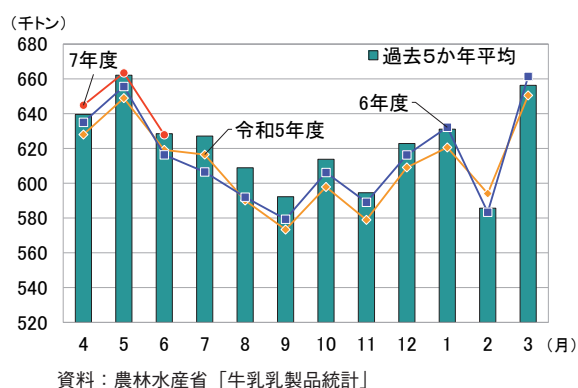
牛乳・乳製品

7年6月の全国の生乳生産量、前年同月を4カ月連続で上回る

北海道の生乳生産量、前年同月比3.8%増

令和7年6月の生乳生産量は、62万7859トン（前年同月比1.9%増）と4カ月連続で前年同月を上回り、前年2月がうるう年であった影響を除くと実質11カ月連続のプラスとなった（図1）。地域別では、北海道が36万5636トン（同3.8%増）となり、11カ月連続で前年同月を上回った。一方、都府県では26万2223トン（同0.7%減）と、12カ月連続で前年割れとなった。

図1 生乳生産量の推移



6月の生乳処理量を見用途別に見ると、牛乳等向けは32万7791トン（同1.0%減）と、2カ月連続で前年同月を下回った。このうち、業務用向けについては2万1441トン（同3.5%減）と4カ月ぶりに前年同月を下回った。

乳製品向けは29万6488トン（同5.3%増）と、4カ月連続で前年同月を上回った。これを品目別に見ると、クリーム向けは5万7518トン（同3.7%減）と下回った。また、

チーズ向けも3万9593トン（同3.4%減）と4カ月ぶりに下回った。一方、脱脂粉乳・バター等向けは、15万3824トン（同13.0%増）となり、11カ月連続で前年同月を上回っている（農畜産業振興機構調べ「交付対象事業者別の販売生乳数量等」）。

全国の牛乳生産量、前年同月並みにとどまる

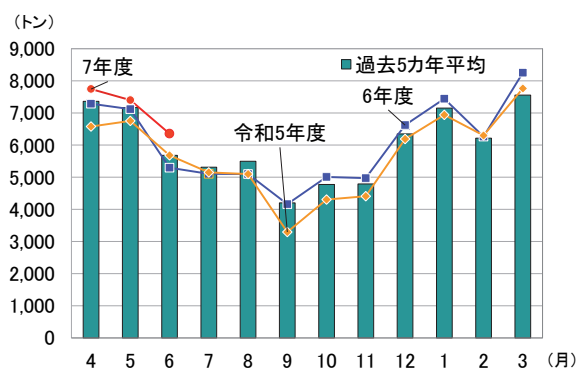
6月の牛乳等生産量を見ると、飲用牛乳等のうち牛乳は、26万4473キロリットル（前年同月比0.3%減）と前年同月並みにとどまった。成分調整牛乳は前年割れが継続しており、1万7125キロリットル（同6.5%減）となった。一方、加工乳については、1万934キロリットル（同4.2%増）4カ月ぶりに前年同月を上回った。

はっ酵乳は8万9225キロリットル（同3.9%増）と2カ月ぶりに前年同月を上回った。

6月のバター在庫量、前年同月比14.2%増

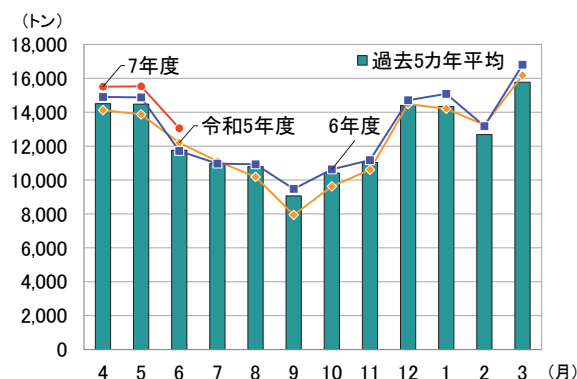
6月のバターの生産量は6356トン（前年同月比19.9%増）と、前年同月を大幅に上回り、4カ月連続での増加となった（図2）。出回り量は6157トン（同0.3%減）と4カ月ぶりに前年同月を下回った（農畜産業振興機構調べ）。在庫量については、10カ月連続で前年同月を上回り、6月末は3万2007トン（同14.2%増）となった（図3）。

図2 バターの生産量の推移



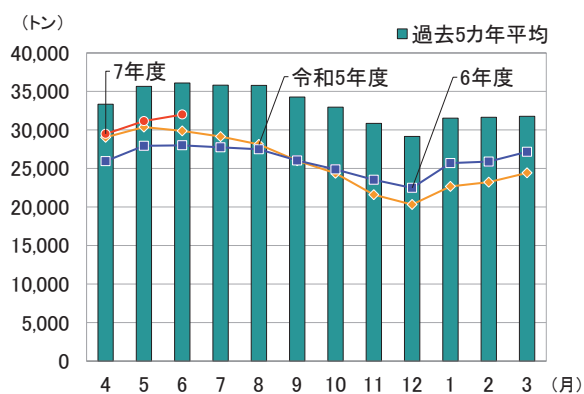
資料：農林水産省「牛乳乳製品統計」

図4 脱脂粉乳の生産量の推移



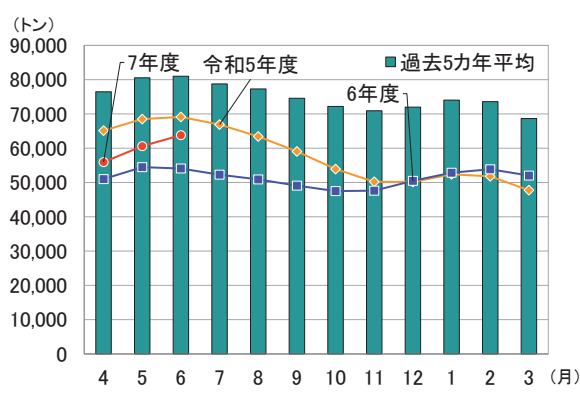
資料：農林水産省「牛乳乳製品統計」

図3 バターの在庫量の推移



資料：農林水産省「牛乳乳製品統計」

図5 脱脂粉乳の在庫量の推移



資料：農林水産省「牛乳乳製品統計」

6月の脱脂粉乳在庫量、前年同月比17.6%増

6月の脱脂粉乳の生産量は、1万3059トン（前年同月比11.5%増）と前年同月をかなり大きく上回った（図4）。一方、出回り量は9865トン（同18.2%減）と大幅に下回り、5カ月連続の減少となった（農畜産業振興機構調べ）。6月末の在庫量は、6万3808トン（同17.6%増）と大幅に増加し、7カ月連続で前年同月を上回った。（図5）。

Jミルク、令和7年度の生乳生産量を735万3000トンに上方修正

一般社団法人Jミルク（以下「Jミルク」という）は令和7年8月1日、「2025年度の生乳及び牛乳乳製品の需給見通しと課題について」を公表した。これによると、令和7年度の生乳生産量は、前回5月30日公表値（733万5000トン）から上方修正されたものの、735万3000トン（前年度比0.3%減）と、前回公表と同様に、2年ぶりに前年度を下回る見通しとなっている。地域別に見ると、北海道は428万4000トン（同0.5%増）と、前回公表の見通し同様、2年連続での増加を見込んでいる。一方、都府県では306万

8000トン（同1.3%減）と4年連続の減少を見込んでいるが、前回公表からは上方修正された（表）。

Jミルクは今回の見通しについて、2025年6月は観測史上最も暑い6月となり、7月以降も平年より高い気温が見込まれ、今年度も猛暑による生乳生産への影響が懸念される

としている。また、飲用需要が最も高まる9月には広域的な配乳調整で対応する必要があることから、酪農乳業関係者は需給に関する情報を綿密に共有し、供給不足による混乱を回避できるよう、広域流通体制や地域ごとの需給動向に応じた配乳調整を推進する必要があるなどとしている。

表 生乳生産量の見通し

（単位：千トン、%）

年度	全国		北海道		都府県	
	生産量	前年度比 (増減率)	生産量	前年度比 (増減率)	生産量	前年度比 (増減率)
令和4年度	7,533	▲1.5	4,254	▲1.3	3,279	▲1.7
5年度	7,324	▲2.8	4,175	▲1.9	3,149	▲4.0
6年度	7,373	0.7	4,264	2.1	3,109	▲1.3
7年度 (見通し)	7,353	▲0.3	4,284	0.5	3,068	▲1.3

資料：農林水産省「牛乳乳製品統計」、一般社団法人Jミルク「2025年度の生乳及び牛乳乳製品の需給見通しと課題について」（8月1日公表）

注：令和4～6年度は実績値、7年度は見通しである。

（酪農乳業部 天野 明日香）

鶏 卵

7年7月の鶏卵卸売価格、前年同月比64.0%高

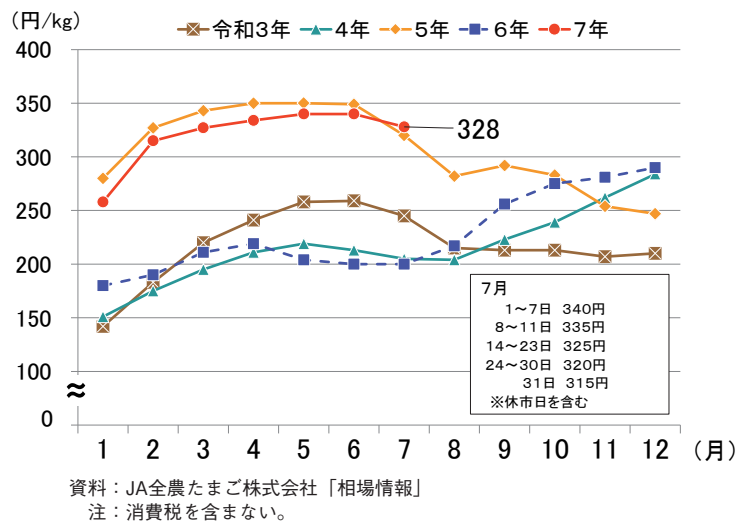
卸売価格

令和7年7月の鶏卵卸売価格（東京、Mサイズ基準値）は、1キログラム当たり328円（前年同月差128円高、前年同月比64.0%高）と、前年同月の同価格を大幅に上回った（図）。同価格の日ごとの推移を見ると、月初の同340円から8日には同335円、14日には同325円、24日には320円、31日には315円と計4回の下落があり、月間

の下落幅は同25円となった。なお、過去5カ年の7月の平均卸売価格は225円であり、それと比較しても、45.8%高と大幅に上回る結果となった。

供給面を見ると、鳥インフルエンザの発生農場における鶏の再導入が進んでおり、生産量は回復基調である一方、気温の上昇により卵重の低下が見られる。需要面を見ると、気温の上昇に伴い量販筋は減退傾向にあるものの、業務筋では一定の需要が見られる。

図 鶏卵卸売価格（東京、Mサイズ基準値）の推移



家計消費量

6月の鶏卵の家計消費量（全国1人当たり）^{（注）}は、880グラム（前年同月比2.8%減）と前年同月をわずかに下回った（総務省「家計調査」）。

なお、過去5カ年の6月の平均消費量との比較では、0.1%減と同水準という結果となった。

（注）1世帯当たりの数値を当該月の世帯人数で除して算出。

（畜産振興部 越川 紗弥）

令和7年『畜産統計』について

農林水産省が令和7年7月25日に公表した「畜産統計（令和7年2月1日現在）」について、肉用牛および乳用牛の概要を以下の通り報告する。なお、本年は2025年農林業センサス実施年のため、豚、ブロイラーおよび採卵鶏の調査は行われていない。

【肉用牛】飼養戸数、飼養頭数ともに前年比減

飼養頭数、肉用種は前年比2.4%減、乳用種も同4.0%減

肉用牛の飼養戸数は、小規模層を中心に減少傾向で推移しており、令和7年は3万4000戸（前年比6.8%減）と前年からかなり

の程度減少した（表1）。飼養頭数は、近年、増加傾向にあったものの、259万5000頭（同2.9%減）と前年からわずかに減少し、2年連続の減少となった。この結果、肉用牛の1戸当たり飼養頭数は、前年から3.1頭増加し、76.3頭となった。

肉用牛は、肉用種および乳用種^{（注1）}に大別され、飼養頭数のうち約7割を占める肉用種は185万1000頭（同2.4%減）とわずかに、約3割を占める乳用種は74万3800頭（同4.0%減）とやや、いずれも前年から減少した（図1）。

肉用種の内訳を見ると、子取り用めす牛は前年比4.5%減の61万1400頭（肉用牛全体

表1 肉用牛の飼養戸数・頭数および1戸当たり飼養頭数の推移

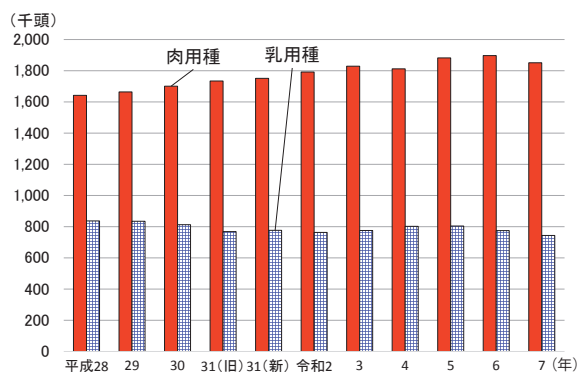
年	全国飼養戸数		全国飼養頭数												1戸当たり 飼養頭数	
			合計		肉用種				乳用種							
					うち子取り用めす牛						交雑種		ホルスタイン種ほか			
	(戸)	前年比 (増減率)	(千頭)	前年比 (増減率)	(千頭)	前年比 (増減率)	(千頭)	前年比 (増減率)			(千頭)	前年比 (増減率)	(千頭)	前年比 (増減率)	(頭)	前年差 (頭)
令和3年	42,100	▲4.1%	2,605.0	2.0%	1,829.0	2.1%	632.8	1.7%	775.8	1.6%	525.7	6.1%	250.0	▲6.7%	61.9	3.7
4年	40,400	▲4.0%	2,614.0	0.3%	1,812.0	▲0.9%	636.8	0.6%	802.2	3.4%	555.3	5.6%	246.9	▲1.2%	64.7	2.8
5年	38,600	▲4.5%	2,687.0	2.8%	1,882.0	3.9%	645.2	1.3%	804.4	0.3%	569.6	2.6%	234.8	▲4.9%	69.6	4.9
6年	36,500	▲5.4%	2,672.0	▲0.6%	1,897.0	0.8%	640.4	▲0.7%	775.1	▲3.6%	567.2	▲0.4%	207.9	▲11.5%	73.2	3.6
7年	34,000	▲6.8%	2,595.0	▲2.9%	1,851.0	▲2.4%	611.4	▲4.5%	743.8	▲4.0%	559.4	▲1.4%	184.4	▲11.3%	76.3	3.1

資料：農林水産省「畜産統計」

注1：数値は各年2月1日現在。

注2：数値は四捨五入の関係で内訳とは必ずしも一致しない。

図1 肉用牛飼養頭数の推移



資料：農林水産省「畜産統計」

注1：数値は各年2月1日現在。

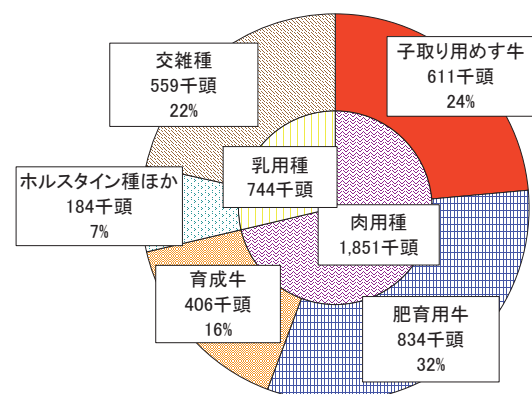
注2：平成31年（旧）までは従来実施してきた飼養者を対象とした統計調査、平成31年（新）および令和2年以降は牛個体識別全国データベースなどの行政記録情報や関係統計により集計した加工統計であり、統計手法が異なる。

に占める割合は24%)とやや、肥育用牛は同1.0%減の83万3600頭(同32%)、育成牛は同2.2%減の40万6200頭(同16%)とわずかに、いずれも前年から減少した(図2)。

乳用種の内訳を見ると、交雑種は同1.4%減の55万9400頭(同22%)とわずかに、ホルスタイン種ほかは同11.3%減の18万4400頭(同7%)とかなり大きく、いずれも前年から減少した。

(注1)「畜産統計」では、乳用種の肉用牛とは、ホルスタイン種、ジャージー種などの乳用種の牛のうち、肉用を目的に飼養している牛で、乳用種と肉用種の交雑種を含むと定義されている。

図2 令和7年肉用牛飼養頭数の内訳



資料：農林水産省「畜産統計」

注1：数値は2月1日現在。

注2：数値は四捨五入の関係で内訳とは必ずしも一致しない。

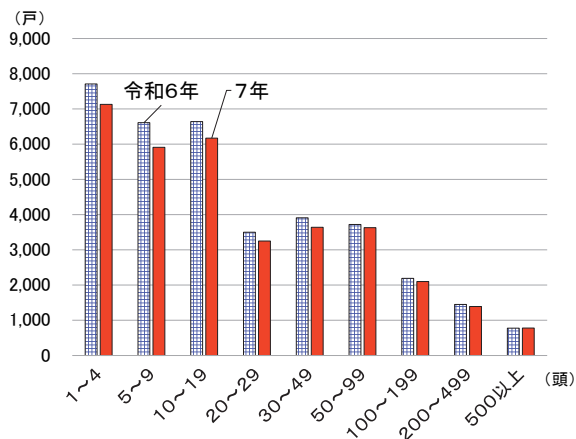
飼養戸数は「500頭以上」以外の階層で前年比減、飼養頭数はすべての階層で前年比減

肉用牛の総飼養頭数規模別の飼養戸数については、500頭以上の階層で前年をわずかに上回ったものの、それ以外のすべての階層で前年を下回った(図3)。同飼養戸数は、1～4頭の階層が最も多く、7130戸(前年比7.5%減)と全体の21%を、次いで10～19頭の階層が6170戸(同7.1%減)と同18%を、5～9頭の階層が5910戸(同10.6%減)と同17%を占める結果となった。また、500頭以上の階層は780戸(同0.6%増)と同2%、200～499頭の階層は1390戸(同4.1%減)と同4%を占める結果と

なった。なお、各階層の同割合は、5～9頭の階層が前年から1ポイント低下し、50～99頭の階層が同1ポイント増加した以外は、前年と同じ割合となった。

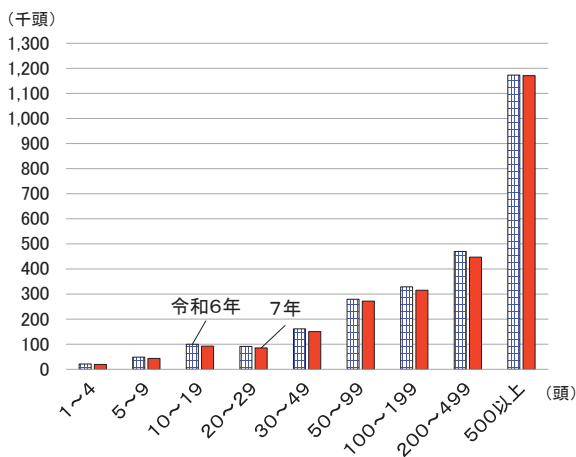
肉用牛の総飼養頭数規模別の飼養頭数については、すべての階層で前年を下回った（図4）。同飼養頭数は、500頭以上の階層が最も多く、全体の45%を占める117万1000頭（同0.2%減）、次いで200～499頭の階層が同17%を占める44万7200頭（同4.9%減）となった。これら上位2階層の同割合は62%と同1ポイント増加した。

図3 肉用牛総飼養頭数規模別飼養戸数の推移



資料：農林水産省「畜産統計」
注：数値は各年2月1日現在。

図4 肉用牛総飼養頭数規模別飼養頭数の推移



資料：農林水産省「畜産統計」
注：数値は各年2月1日現在。

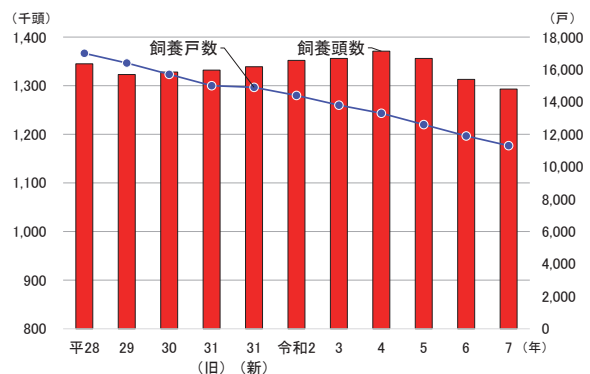
(畜産振興部 小森 香穂)

【乳用牛】全国の飼養戸数、飼養頭数ともに前年比減

全国の飼養頭数、3年連続で減少

乳用牛の飼養戸数は前年割れが継続しており、令和7年2月1日現在では、1万1300戸（前年比5.0%減）と前年をやや下回った（図5）。地域別に見ると、北海道では4970戸（同3.9%減）、都府県でも6350戸（同5.6%減）といずれも前年をやや下回った（表2）。また、乳用牛飼養頭数は、129万3000頭（同1.5%減）と3年連続での減少となった。地域別に見ると、北海道が81万6800頭（同0.6%減）、都府県が47万6200頭（同3.1%減）と、いずれも前年を下回った。一方、酪農家の規模拡大は進展しており、1戸当たりの飼養頭数は前年から4.1頭増加し、114.4頭（同3.7%増）となった。地域別では、北海道が164.3頭（同3.4%増）、都府県が75.0頭（同2.7%増）といずれも増加している。

図5 乳用牛飼養頭数・飼養戸数の推移



資料：農林水産省「畜産統計」
注1：数値は各年2月1日現在。

注2：平成31年（旧）までは従来実施してきた飼養者を対象とした統計調査、平成31年（新）および令和2年以降は牛個体識別全国データベースなどの行政記録情報や関係統計により集計した加工統計であり、統計手法が異なる。

表2 令和7年 乳用牛の全国農業地域別飼養動向

地域	令和7年					
	飼養戸数 (戸)	前年比 (増減率)	飼養頭数 (頭)	前年比 (増減率)	1戸当たり 飼養頭数	
					(頭)	前年比 (増減率)
北海道	4,970	▲3.9%	816,800	▲0.6%	164.3	3.4%
都府県	6,350	▲5.6%	476,200	▲3.1%	75.0	2.7%
東北	1,550	▲6.1%	87,500	▲2.0%	56.5	4.4%
北陸	204	▲6.4%	10,400	▲6.3%	51.0	0.2%
関東・東山	1,960	▲5.3%	157,200	▲2.7%	80.2	2.8%
東海	436	▲5.6%	42,100	▲3.0%	96.6	2.9%
近畿	310	▲8.0%	21,700	▲4.8%	70.0	3.4%
中国	483	▲4.9%	44,200	▲3.3%	91.5	1.7%
四国	227	▲6.2%	15,300	▲3.8%	67.4	2.6%
九州	1,120	▲5.1%	94,200	▲3.7%	84.1	1.4%
沖縄	65	0.0	3,570	▲3.0%	54.9	▲3.0%
全国	11,300	▲5.0%	1,293,000	▲1.5%	114.4	3.7%

資料：農林水産省「畜産統計」（令和7年2月1日現在）
注：数値は四捨五入の関係で内訳とは必ずしも一致しない。

飼養頭数「100頭以上」の階層、全体の半数を占める

乳用牛飼養戸数を成畜（満2歳以上の牛または2歳未満のうち経産牛。以下同じ）の飼養頭数規模別に見ると、「100頭以上」の

階層は2159戸（前年比0.3%増）と前年並みにとどまったが、全体に占める割合は19.1%と1.0ポイント増加した（表3）。このうち「200頭以上」の階層は、709戸（同2.5%増）と前年からわずかに増加した。「80

表3 乳用牛の飼養頭数規模別飼養戸数・飼養頭数の推移

区分		令和3年	4年	5年	6年	7年	前年比 (増減率)	飼養戸数/頭数 別階層比
全国飼養戸数（戸）		13,800	13,300	12,600	11,900	11,300	▲5.0%	100.0%
乳用牛 成畜飼養頭数 規模別飼養戸数 (戸)	1～19頭	2,710	2,510	2,460	2,260	2,090	▲7.5%	18.5%
	20～29頭	1,740	1,590	1,420	1,280	1,170	▲8.6%	10.4%
	30～49頭	3,280	3,120	2,860	2,650	2,460	▲7.2%	21.8%
	50～79頭	2,820	2,750	2,600	2,460	2,360	▲4.1%	20.9%
	80～99頭	946	917	871	859	860	0.1%	7.6%
	100頭以上	2,030	2,119	2,105	2,152	2,159	0.3%	19.1%
200頭以上		610	669	675	692	709	2.5%	6.3%
全国飼養頭数（千頭）		1,356	1,371	1,356	1,313	1,293	▲1.5%	100.0%
乳用牛 成畜飼養頭数 規模別飼養頭数 (千頭)	1～19頭	59	59	62	50	45	▲10.7%	3.5%
	20～29頭	63	62	54	53	46	▲13.1%	3.5%
	30～49頭	191	175	167	148	142	▲4.0%	11.0%
	50～79頭	264	257	247	229	218	▲4.8%	16.8%
	80～99頭	128	121	118	112	113	1.3%	8.8%
	100頭以上	634	680	689	708	715	1.0%	55.3%
200頭以上		354	392	403	413	426	3.1%	32.9%

資料：農林水産省「畜産統計」
注1：数値は各年2月1日現在。
注2：全国飼養戸数及び全国飼養頭数は子畜を含む。
注3：数値は四捨五入の関係で内訳とは必ずしも一致しない。

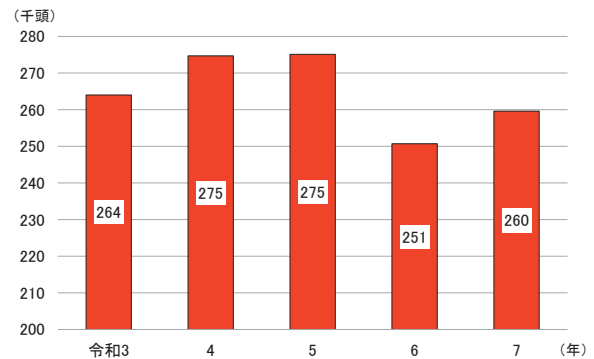
～99頭」の階層は前年並みとなったが、80頭未満の階層はいずれも減少した。

また、乳用牛飼養頭数を成畜の飼養頭数規模別に見ると、「100頭以上」の階層が71万4800頭（同1.0%増）と前年からわずかに増加し、全体の55.3%を占めた。このうち「200頭以上」の階層は、42万5700頭（同3.1%増）とやや増加し、全体の32.9%を占めた。また、「80～99頭」の階層についても11万3300頭（同1.3%増）と前年からわずかながらも増加した。一方で、80頭未満の階層については、すべての階層で減少した。飼養戸数は前年から5.0%減少しているが、80頭以上の階層では飼養戸数および頭数ともに増加し、さらに200頭以上の階層でその増加率は大きいことから、経営が大規模化していることがうかがえる。

乳用種めす出生頭数、3.6%増加

直近1年間（令和6年2月～令和7年1月）の乳用種めす出生頭数は、25万9600頭（前年同期比3.6%増）となり、前年から増加に転じた（図6）。

図6 乳用牛出生頭数（乳用種めす）の推移



資料：農林水産省「畜産統計」

注：出生頭数は前年2月から本年1月までの1年間。

（酪農乳業部 天野 明日香）